

# スマイルタイムズ

## 不妊・不育の問題

院長 中山 茂樹

やっと当地も梅雨入りと思われませんが、沖縄では梅雨明けという、日本も意外と広いものですね。

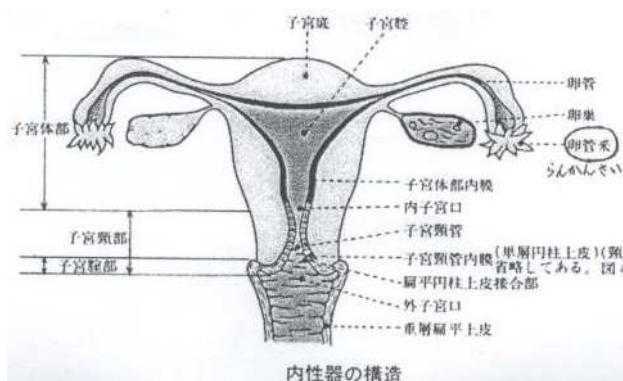
今、我が列島ではサッカーワールドカップのお祭りでフィーバー中(古いかナ)です。私も夜は8時半からテレビの前に座り込んでいます。野球やゴルフは結果を聞くだけでもよいのですが、サッカーだけは試合を見ないと我慢できないのはサッカーが好きだからですかね。

それを我慢して、19日の土曜日はAPEC(エーペック=アジア太平洋経済協力会議)で警戒厳重、警官が辻々に立っている福井市まで、西ウイミンズクリニックの西院長と富永先生(福井大学医学部名誉教授)主宰の、鈴木秋悦先生(元、慶応大学教授、WHOヒト生殖プログラム科学技術アドバイザー)の講演を聴きに行きました。少人数の勉強会でしたので、非常にためになり、行ったかいがありました。

さて、32年前に英国で始めて行われた体外受精で生まれた子供は既に日本では10万人以上(世界では100万人を越える)で、年々増えています。ルチン検査(不妊の原因が女性の内分泌、排卵、子宮、卵管、頸管等にあるのか、あるいは男性の方にあるのかを調べる一連のテスト)はその後も進歩はないようです。そして、ある程度治療後、卵管采(らんかんさい=下図=内性器T字型の上部左右の端)の取り込み不良という診断で体外受精にすぐ持ち込んでいるというのが現在の多くの状況だそうです。

それと同時にここまで走ってくると臨床、臨床とどうしても結果優先で、基本的、基礎研究や考察がなされていないということも問題になりそうということでした。不妊症の専門の先生方のミーティングだったので、自分の考えや治療方針が比較できたのがよかった上、ほぼ、治療内容や考え方に違いは認められませんでした。特に西先生とは悩んでいる事柄や治療の方法が全くと言っていいほど共通していました。

婦人科の医者



たるもの誰しも不妊症や不育症の方々に赤ちゃんを得て頂きたいと思うものです。それによって人生観をも変えて欲しいと望んでいるものです。ただ、そこには別のジレンマがあります。一つは、高齢者の方やいろいろ家庭的や身体的に問題のある方に治療を施すのが良いのか、二つには、法的整備がされていない状況での治療は許されるのか、そして最大の、そもそも体外受精そのものはいいか。それらを繰り返す retrospective な(振り返っては反省する)考察はされているか、等々。

不妊・不育治療は悩みの尽きない治療ではあるようです。そんな話し合いを繰り返してきました。

### 賑やかな家族 助産師 夜久 由香里

例年より遅い梅雨入りでしたが、ジューンブライドの6月ですね。私事で恐縮なのですが、今年の5月で結婚10年を迎えることができました。

結婚と同時に福井県に住んで、こちらのクリニックで働かせて頂いたので、全て10年経過したことになり、時の流れの早さを感じています。

この10年で我が家の状況は激変しました。現在小学2年生の長男、保育所年長の次男、1歳の長女とメタボな夫との5人家族となり、賑やかな生活を送っています。

顔も性格も主人似のちょっと“へたれ”だった長男も少年野球チームに入り、男らしく成長しています。頑固でマイペースな次男(私似?)は、兄ちゃんを見て色んな事にチャレンジしています。

兄弟でもやっぱり個性があっっておもしろいなあと考える余裕が出来てきた頃に長女を授かりました。長女は1歳で、すでに次男よりも頑固そうに感じ…今後の成長が楽しみです。

3人の妊娠・出産を経験して女性の变身をリアルに感じている私ですが、助産師として皆様の変身を間近で見られるのも本当に楽しいです。

子供の1年のようなすごい变身は無理ですが、この先の10年、更に変身できるように子供に負けない努力が必要だな、と感じているこの頃です。

[あ と が き] 1) 院長の文の不妊症は誰しもが知っている子供が出来ない症状。不育症は当紙前号で《学習》として解説した習慣流産を含む、胎児が育たない症状。2) 当院、待合室ミニギャラリーは目下、第51回、山崎久子さん(小浜市北塩屋)の油絵です。ご鑑賞下さい。